

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

ブラフマニズムとヒンドゥイズムー南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性

Brahmanism and Hinduism: Change and Continuity in South Asian Society and Religion

2. 研究代表者氏名

藤井 正人

Fujii, Masato

3. 研究期間

2016年04月 - 2019年03月 (3年度目)

4. 研究目的

ブラフマニズム(バラモン教)は、ヴェーダ文献に基づく宗教儀礼と生活・社会規範を含む古代インドの支配的宗教体系である。その後の仏教やジャイナ教など、ヴェーダに基づかない非正統派の宗教の成立と前後して、ブラフマニズムの内部および周辺から、新しいタイプの信仰形態、宗教思想、宗教儀礼をもつヒンドゥイズム(ヒンドゥー教)が形成されていった。しかし、ブラフマニズムはヒンドゥイズムへと移行・解消したのではなく、両者はインドの社会と宗教の二つの基軸として、現代に至るまで並存し、混淆し、互いに影響を与え合ってきている。本研究は、ブラフマニズムとヒンドゥイズム、およびそれらと距離をおきながらも共存してきたその他の宗教との通時的および共時的関係に関する研究を通して、南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性を解明することを目的としている。

5. 本年度の研究実施状況

本研究では3年の研究期間を半年ごとの全6クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複数回の定例研究会とクール最後のシンポジウムを開催している。今年度前半の第5クールでは、定例研究会で古代および中世インドの哲学と学問について、ウパニシャッド、パーニニ文法学、伝統学問分野、密教ホーマ儀礼、後期アドヴァイタ学派、ヤースカ語源学についての報告が行われ、10月に「古典インドの哲学と学問」をテーマに第5回シンポジウムを人文科学研究所で開催した。後半の第6クールでは、定例研究会で古代および中世インドにおける王権と宗教を取り上げ、これまでに王権儀礼、王座とブラフマン神、ダルマ文献、ヴェーダの願望祭、密教灌頂、祭官選任儀礼、ジャイナ教のクシャトリヤ観、仏教と王権に関する報告を行うとともに、3月に「古代・中世インドにおける王権と儀礼」をテーマに第6回シンポジウムを東京大学で開催した。

6. 研究成果の概要

本共同研究の課題である「ブラフマニズムとヒンドゥイズムー南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」を様々な射程からアプローチするために、3年間の研究期間を全6クールに分け、クールごとに以下のテー

マを設定して研究を行った:第1クール「知の変化と発展」、第2クール「禁欲・出家・苦行」、第3クール「神話・説話・表象」、第4クール「儀礼・制度・社会」、第5クール「哲学と学問」、第6クール「王権と宗教」。テーマに基づいて、毎月の定例研究会と半年のクール最後のシンポジウムを繰り返し、3年間で 28 回の定例研究会(報告総数 38)、6 回のシンポジウム(発表総数 41)を開催した。今後、研究のまとめのために基盤研究班(C班)として1年間期間を延長して、各クールのテーマをもとに複数巻の論文集として出版する計画である。

7. 本年度の研究実施内容

2018-04-27

「祭式歌詠と思想:最初のウパニシャッドはどのように生まれたのか」

発表者 藤井 正人

2018-05-25

「パーニニ文法に見られる祭式的要素:高低アクセント (svara) の問題を中心に」

発表者 尾園 絢一 東北大学

2018-06-22

「14 または 18 の vidyasthana(学問分野)について」

発表者 吉水 清孝 東洋文庫

2018-07-20

「インド密教におけるホーマ儀礼:アバヤーカラグプタ著『光の花房』を中心に」

発表者 菊谷 竜太 白眉センター

2018-09-14

「ブリハッド・カターに登場する王と神—カシミール系ブリハッド・カターを中心に」

発表者 眞鍋 智裕 日本学術振興会特別研究員

「神の名の意味を知ること:神名アグニ (agni) の分析に見るヤースカの語源学と神学」

発表者 川村 悠人 日本学術振興会海外特別研究員 堂山 英次郎 大阪大学

2018-10-07

第5回シンポジウム「古典インドの哲学と学問」

「最初のウパニシャッドはどのように生まれたのか」

発表者 藤井 正人

「ヴェーダ祭式とパーニニ文法学」

発表者 尾園 絢一 東北大学

「神の名の意味を知ること:神名アグニ (agni) の分析に見るヤースカの語源学と神学」

発表者 川村 悠人 日本学術振興会海外特別研究員 堂山 英次郎 大阪大学

「インド密教におけるホーマ儀礼について」

発表者 菊谷 竜太 白眉センター

2018-10-08

第5回シンポジウム「古典インドの哲学と学問」

「後期アドヴァイタ学派における bhakti 論」

発表者 眞鍋 智裕 日本学術振興会特別研究員
「14 または 18 の学問 (vidyasthana) について」

発表者 吉水 清孝 東洋文庫

2018-11-02

「ヴェーダ入門・学習儀礼における帯と衣について」

発表者 手嶋 英貴 京都文教大学

2018-12-21

「王座とブラフマン神:Kausitaki-Upanisad 第1章をめぐる」

発表者 藤井 正人

2019-01-11

「ダルマ文献における裁判・司法セクションの位置付け」

発表者 沼田 一郎 東洋大学

2019-02-08

「願望祭とヴェーダ期における社会秩序の維持」

発表者 天野恭子 白眉センター

「インド密教における灌頂次第とチベットへの伝達」

発表者 菊谷竜太 白眉センター

2019-03-08

「Pravara において祭主が唱える mantra とその brahmana」

発表者 西村直子 東北大学・非常勤

「ジャイナ教におけるクシャトリア観の一事例」

発表者 河崎 豊 東京大学

「仏教と王権—ブッダの始祖伝説からモンゴル王統史まで—」

発表者 山口周子 文学研究科・非常勤

2019-03-23

第6回シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」「王座とブラフマン神」

発表者 藤井正人

「願望祭とヴェーダ期における社会秩序の維持」

発表者 天野恭子 白眉センター

「血統、家系はなぜ重視されたのか:祭官選任儀礼の整備を中心として」

発表者 西村直子 東北大学・非常勤

「贖罪としてのアシュヴァメーダ」

発表者 手嶋英貴 京都文教大学

2019-03-24

第6回シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」「ジャイナ教におけるクシャトリア観の一事例」

発表者 河崎 豊 東京大学

「仏教と王権—ブッダの始祖伝説からモンゴル王統史まで—」

発表者 山口周子 文学研究科・非常勤

「インド密教における灌頂次第とチベットへの伝達」

発表者 菊谷竜太 白眉センター

「ダルマ文献における司法論題の配置とその変遷」

発表者 沼田一郎 東洋大学

8. 共同研究会に関連した公表実績

第5回シンポジウム「古典インドの哲学と学問」 2018年10月7日・8日 京都大学人文科学研究所

第6回シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」 2019年3月23日・24日 東京大学文学部

9. 研究班員

所内

藤井正人、井狩彌介、田中雅一、石井美保

学内

赤松明彦(白眉センター)、横地優子(文学研究科)、天野恭子(白眉センター)、菊谷 竜太(白眉センター)、八木綾子(文学研究科・非常勤講師)、山口 周子(文学研究科・非常勤講師)、高橋健二(文学研究科・博士後期課程)、趙 世弘(文学研究科・博士後期課程)

学外

伊澤敦子(国際仏教学大学院大学・図書館職員)、井田克征(金沢大学・客員研究員)、永ノ尾信悟(東京大学・名誉教授)、大島智靖(東京大学・研究員)、置田 清和(上智大学)、小倉智史(東京外国語大学)、尾園絢一(東北大学・専門研究員)、梶原三恵子(東京大学)、河崎 豊(東京大学)、川村悠人(日本学術振興会海外特別研究員)、小林 史明(東京大学・博士課程)、小林正人(東京大学)、佐々木 雄太(東北大学・博士課程)、佐藤直美(宗教情報センター・研究員)、柴崎麻穂(中村元東方研究所・専任研究員)、高橋 孝信(東京大学・名誉教授)、竹崎 隆太郎(東京大学・博士課程)、田辺明生(東京大学)、手嶋英貴(京都文教大学)、堂山英次郎(大阪大学)、中村 史(小樽商科大学)、名和隆乾(大阪大学)、西村直子(東北大学・非常勤講師)、沼田一郎(東洋大学)、眞鍋 智裕(日本学術振興会特別研究員)、山田智輝(大阪大学・招へい研究員)、吉水清孝(東洋文庫・研究員)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内		2 (0)	0	0	0	24 (0)	0	0	0
学内		6 (2)	0	1 (0)	2 (0)	49 (22)	0	11 (0)	14 (0)
国立大学	4	16 (3)	0	1 (0)	2 (0)	125 (26)	0	5 (0)	16 (0)

公立大学		0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	3	3 (1)	0	0	0	27 (12)	0	0	0
大学共同利用機関法人		0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関		0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関		0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関		0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	27 (6)	0 (0)	2 (0)	4 (0)	225 (60)	0 (0)	16 (0)	30 (0)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数
なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

13. 次年度の研究実施計画
なし

14. 次年度の経費
なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等
最終報告書に記載